

〈研究ノート〉

# 酪農業振興における政府支援策と金融機能の重要性

— 中国内モンゴル自治区に着目して —

周 華

## Importance of Government Support Measures and Financial Functions to Promote the Dairy Industry — Focusing on Inner Mongolia of China —

Hua ZHOU

### 要 旨

本稿は、酪農業振興の方策について、中国最大の酪農地帯である内モンゴル自治区を事例として考察することを目的とする。

そのため、内モンゴル自治区巴彥淖爾市烏拉特前旗烏拉山鎮にある中規模の乳牛養殖場である金牧乳業養殖場の実態を先行研究のデータをもとに考察した。それにより、酪農業をめぐる厳しい経営環境のなかで、養殖場をはじめ酪農家の経営は資金融資難と支援策の不足に直面していることが分かった。

内モンゴル自治区酪農業において重要な役割を果たしている養殖場と酪農家の経営を継続し生乳の安定供給を確保するには、政府の役割が十分に機能することのみならず、金融システムとの積極的な連携の推進が重要である。

キーワード：酪農地域、支援政策、農村金融システム

### Summary

This paper focuses on Inner Mongolia, the largest dairy land in China to discuss the measures to promote the dairy industry.

The author discusses the reality of Jin Mu Dairy farm which is a middle-size farm in Wulashan town, Urad Front Banner, Bayan Nor of Inner Mongolia based on the preceding study data. The study shows that farms and other farmer's management face difficulties in moneylending and insufficient supportive measures in the harsh business environment surrounding the dairy industry.

Since farms and farmers' management play important roles in the dairy industry in Inner Mongolia, the government needs to play its full part and to promote active collaboration with the financial system in order to ensure continuance of farms and farmers' management and stable supply of raw milk.

Key words : dairy area, supportive policies, rural finance system

## I. 研究の背景

中国では1978年の「改革開放」政策の実施をきっかけに、農村改革は重要な経済改革の一つとして推進され、これにより農村の産業構造が改善された。これにより畜産業は、著しい成長を遂げている。

その中で、酪農業も急成長を遂げ、国の重要な基幹産業の一つとして位置づけられた。さらに、2000年には学生飲用乳制度が導入されるなど、乳製品の消費拡大が図られると同時に、酪農企業が重要な成長企業として様々な優遇措置も講じられている。

一方、中国酪農業の発展を牽引してきた内モンゴル自治区（以下「内モンゴル」とする）においては、酪農業による発展戦略を機に、2003年に黒龍江省を抜いて以降、生乳生産量は全国第1位になった。この飛躍的な発展を遂げた背景には、地理的条件や自然環境が酪農業に適合した地域であることに加え、酪農業に従事するモンゴル族が優良な伝統を長い歴史の中で受け継いできたこと、中央政府や自治区政府が地域の重要産業である酪農業を重視し政策としてその発展を強力に推進していること、中国最大の乳業メーカーである伊利乳業、蒙牛乳業が呼和浩特市に本社に置いていることがある。

しかし、近年の飼料価格の高騰をはじめ生乳価額の低迷や飼養技術水準の向上が遅れたこと、さらに、2008年10月に発生したメラミン混入事件を機に生乳評価制度が導入されたことから、重要な役割を担う酪農事業者の収益が低下し、酪農経営資金の不足などの主な要因による乳牛と畜や転業などが相次いでいる。このような生乳生産量の供給不足・不安定性が酪農業の発展を減速させ、酪農業衰退の大きな要因となっている。

アメリカの経済学者であるClaudio（2003）は、過去20年間に多くの途上国の農村金融市場に

における支援政策、金融市場の問題点について研究し、政府の支援機能と金融機能への積極的な連携が、農村融資供給不足の有効対策であると指摘している。また岡崎（2010）は、中国の農村金融制度改革が本格化して以来、財政部及び中央銀行による資金支援などを梃子に、既存金融機関の財務内容の改善や新たな形態の金融機関の設立が進み、貸出実行を支える環境が整備される一方、農村金融において農家や農村の中小企業の多くは、依然として正規の金融ルートから締め出されていること、また農村のニーズに柔軟に対応する金融市場を実現するためには、商業金融、政策金融、合作金融の役割分担をより明確にし、その役割を有効に果たしていくことが重要であると主張している。

王ほか（2006）は、先進国の金融深化論に基づいて、中国の農村金融抑圧の実態を調査した結果により、農村金融抑圧にはいくつかの要因があると指摘している。その具体的な要因として、次の2点を挙げている。第1は、金融市場における農牧民の位置づけが低く、生産を行うために必要な資金を確保することが難しいこと。第2は、農牧民は正規金融機関（認可金融）から融資を受けにくく、コスト高な民間金融（非認可金融）に依存していることである。農村の金融改革は、農村地域における経済発展の水準と経済構造の多様性に柔軟に対応すべき役割を持つという認識のもとに、農村金融市場の再構築と農牧民に融資を受けやすくする金融システムの構築が必要である。

## II. 課題意識

上述のとおり、新たな成長産業としての酪農業が地域経済発展の重要な産業として位置付けられ、飛躍的な発展を遂げた。その中で重要な役割を担う内モンゴルの酪農業は、地域を振興の発展戦略を背景として著しく成長を遂げてきた。

しかし、酪農業を巡る環境が益々厳しくなる今日、健全で持続可能な酪農業を実現するために、酪農家の経営を継続し生乳の安定供給を確保する根本的な方策としては、政府の役割が十分に機能することのみならず、有効な金融システムを整備しなければならない。先行研究では、農村融資供給不足への有効対策としては、政府の支援機能の確立と金融機能との積極的な連携の推進が重要であると指摘している。そこで本研究では、酪農業振興のあり方を考察するために、直接的な要素である政府の支援機能と間接的な要素である金融機能の2つの視点から、酪農業の現状を的確に把握し、より有効な振興戦略を考察する<sup>1)</sup>。そのため、内モンゴルを中国における代表的な酪農地域を事例として捉えその実態を把握し検討することにより、酪農業振興のあり方へと考察を繋げる。

### Ⅲ. 酪農業の重要性と金融機能の現状

#### (1) 酪農業の歴史と発展

##### 1) 酪農業の歴史

今から5000年ほど前から、少数民族の地域（中国の北部、西部）の遊牧民には、黄牛やヤクの乳を利用して乳製品に加工する自給自足型の習慣があった。この自給自足の習慣は19世紀終盤まで続いた。「改革開放」政策の実施を機に、この少数民族の特有な習慣が、近代的な酪農業として中国酪農業発祥の地といわれる黒龍江省で採り入れられた。中国においては、商品化生産を伴う近代的な酪農業の歴史はわずか110年しかなく、新たな産業であるといえる。

中華人民共和国成立前後、酪農業は高級品を提供する富裕層のための産業であるため、大・中都市地域周辺に生産拠点が点在し生産規模や生産量が小さい。また生産技術も遅れているという特徴がある（長谷川ほか2010）。

##### 2) 酪農業の発展

1978年の「改革開放」政策の実施をきっかけに、農村改革は重要な経済改革の一つとして推進され、これにより農村の産業構造が改善された。これにより、畜産業は著しい成長を遂げ、農業総生産額に占める畜産業生産額の割合は、1978年の14.9%から2000年には30%まで伸びた。とりわけ、酪農業は急成長を遂げている。即ち、牛乳生産量は1996年の629.4万トンから2012年の3,743.6万トンに上り、成長規模は約5倍に達した。この背景には、中央政府の指導より実施した「全国栄養改善計画」により酪農業が国の重要な基幹産業の一として位置づけられたこと、さらに、2000年には学生飲用乳制度が導入されたことなど、乳製品の消費拡大が図られると共に、酪農企業が重要な成長企業であるとして様々な優遇措置も講じられていることがある。

酪農業成長促進政策の視点からみると、国民食事構成の改善をはじめ、農村産業構造の調整、産業発展の加速、関連産業の発展促進など、酪農業は重点的な発展産業として位置づけられた。まず牛乳は、人々の栄養構成を改善し国民体質を増強する戦略食品として確立する。次に、酪農業の発展による農業産業構造の改善のみならず、農業振興、農村の経済成長、農民の増収と負担軽減という三農問題の解決に繋げる。さらに、酪農業サプライチェーンには、諸産業とのつながりが大きく牽引性が強いという特徴があることから、作物栽培や養殖業、飼料加工業、食品添加剤業、包装業などの発展に対する酪農業の役割は大きいことが挙げられる。

##### 3) 酪農業における政府の支援策<sup>2)</sup>

改革開放以来、中国の酪農業は政府により基幹産業として位置づけられたことより、着実な発展を遂げてきた。この著しい成長こそ、農業構造改善政策の成果であるといえる。このため、農牧民の収入向上、乳業企業の振興による規模拡大、生産力アップ、乳製品消費の向上などに大きく貢献してきた。しかし、近年、飼料価格の高騰をはじめ、生乳価額の低迷、飼養技術水準の遅

れなど、さらに、2006年以降、重要な役割を担う小規模酪農家の収益が低下し、乳牛と畜や転業などが相次いでいる。このような生乳生産量の供給不足・不安定性が酪農業の発展を減速させ、酪農業衰退の大きな要因となっている。

この衰退の要因を除去し、酪農業が持続的な発展を促進するため、中国国務院は各省・自治区・直轄市政府及び国務院各部・委員会・直属機関あてに「乳業の持続的かつ健全な発展促進に関する国務院の意見（〔2007〕31号）（以下「乳業発展意見」とする）を公布した。乳業発展意見では、酪農業の国の基幹産業としての重要性を改めて認識したうえで、今後の発展促進に向けて支援策として以下の2点を挙げている。

第1は、優良な乳牛導入などに対する補助政策の継続実施と拡充、乳牛の施設の保険制度の構築、酪農家に対する融資強化、酪農業に関する産業政策の改善などを推進することである。第2は、地方政府による酪農業に対する責任ある指導の強化と、乳牛飼養、製品加工、牛乳・乳製品市場及び製品価格などに関する問題の適切な解決、職責に応じた国務院関係部署による酪農業に対する指導強化と地方政府の任務に対するサポートなどを通じて、酪農業の発展を促進することである。

また、同年10月に農業部は、乳業発展意見に基づいて関係部署と積極的に協議を重ねた結果、7つの重点項目をまとめ発表した。その内容は以下のとおりである。

a：優良な乳牛に対する補助の拡充（対象乳牛1頭当たり500元、乳牛種畜生産基地の設置、優良後継牛資源の増加）。b：飼養の標準化・大規模化に対する支持強化（飼養方式・技術の標準化と大規模化、機械化の補助に関する財政装置）。c：酪農業特区の建設（酪農業特区の配置の最適化と範囲の拡大）。d：乳牛の感染防御の強化と保険制度の構築（乳牛など家畜の感染による強制淘汰に対する適切な補助、乳牛の政策的保険制度の構築と掛け金に対する適切な補助）。e：品質基準体系及び表示制度の確立（還元乳の検査方法・技術、液状乳製品の加工技術と製品基準の改善）。f：酪農業協同組織の発展に対する支援（酪農業合作社及び酪農專業合作社に対する支援強化、合理的な生乳価格形成システムの構築）。g：酪農業市場のグローバル化に対する積極的な挑戦（乳業企業の自主的な研究開発能力の増強、製品競争力の高め、牛乳・乳製品の輸出入コントロールの強化・改善、市場への安定供給の保障など）である。

この内容を見ると、政府支援においては酪農業に特化した金融支援策は見当たらない。そこで酪農を含む農村金融現状とあり方について次章で検討する。

#### IV. 農村金融機能の現状

農村金融機能の現状については、王（2013）と張、賈（2007）に基づき、それぞれの正規金融組織と民間金融組織について確認する。中国の農村金融組織は、正規金融組織と民間金融組織から構成されている。正規金融組織は、中国農業銀行や中国農業發展銀行、農村合作金融機関、

郵政貯蓄銀行、国家発展銀行、新型農村金融機関、小型貸出会社で構成されている。一方、民間金融組織には、会、銭荘、質屋、高利貸し、知人貸借などが挙げられる。涉农融資（農業・農村・農家、関連融資）の動向とその特徴は、以下のような内容が挙げられる。

## （1）正規金融組織

### 1）増加した涉农融資とその資金用途

2010年末における涉农融資の残高と資金用途の動向には、次のような特徴が見られる。涉农融資残高は増加しており、金融機関の総貸付金残高に占める比率も上昇している。また、農業生産や加工、流通関連融資が鈍化し、農村インフラ建設融資が急増している。さらに、涉农融資では、農村向けの貸付のみならず、都市部立地農業関連企業等の組織向けの融資も行われている。その割合は、農村向けの貸付の割合が高く、2007年と2010年ともに8割以上である。また、農村向けの貸付については、農家への貸付が低く、22%に留まる一方、農村に立地する企業等への貸付が高く、6割以上を超えているという特徴がある。

### 2）農家融資の動向と特徴

金融機関による農家向けの融資状況（2010末）は、農家生産・経営資金における貸付金残高に占める割合が84.2%と高く、2兆1937億元となっている。その内訳は農林牧漁業・経営資金にかかる資金が多い。また、融資担保別の内訳は、金融機関は8割以上の農家融資について何らかの担保や保証を求められていることが見られる。とりわけ、農家向けの融資のなかで、約5割の融資が保証付きで定められている。この保証付き条件が、農家の生産、経営において、資金調達難を引き起こる根本的な要因と考えられる。

## （2）民間金融組織

中国農村金融市場には、金融サービスを提供する正規金融組織以外に、民間金融組織も存在している。民間金融組織の中で代表的なものとして、会や銭荘、質屋、高利貸し、知人貸借などが挙げられる。それらが存在する原因と特徴を確認する。上述のように、農家は正規金融組織から資金調達が難しいため、民間金融組織が主要な資金借り入れ先となっている。農家の借入は民間金融への依存度が高い状況について、民間金融の利点欠点の観点から以下のような指摘を行っている。

利点は、①固定費、人件費などの経営コストが低い。②取引時間の制約がない。③経営が柔軟で手続きが簡便である。④契約の多くは地縁、地縁に根ざす人的関係によって成立しており、責務者が無責任を負うことが多く、責務不履行のリスクが小さいことなどが挙げられる。欠点は、①情報やコストなどの制約から、比較的狭い範囲で固定客を中心に融資が実行され、リスク分散ができず、資金が偏在しがちとなる。②法的保証に欠け、契約紛糾時に非合法暴力組織の関与などを招きやすい。③民間金融組織の経営メカニズムが未整備で、内在するリスクが大きいことなどが挙げられる。また、正規金融組織に比べ民間金融組織の貸借は無利子<sup>3)</sup>のことがあるが、総じて高金利というのが実態である。



## V. 内モンゴルにおける酪農業発展と農村金融機能の現状

### (1) 内モンゴルの概要

内モンゴルは、中華人民共和国が最初の少数民族自治区として1947年5月1日に設置した省級の自治体である。中国領土の北沿に位置し総面積は118.3万km<sup>2</sup>であり、中国の総面積の12.3%を占めている。地形は主に海拔1000メートル以上の高原で、東部は草に覆われた広い草原で、西部は乾燥した荒地の広がる砂漠である。内モンゴルの首府は呼和浩特市で、他の主な都市は包頭市、烏海市、集寧市、錫林浩特市、鄂尔多斯市、滿州里市、烏蘭察布市、呼倫貝爾市など、人口は2013年には2,497.6万人に達した。人口密度は20.2人/km<sup>2</sup>である。住民は主に漢族(約80%)とモンゴル族(約17%)である。その他、回族、満族、朝鮮族など全部で49の少数民族が居住している。

### (2) 酪農業の発展

内モンゴルにおいて、2000年以降に酪農業が飛躍的な発展を遂げた背景には、地理的条件、自然環境が酪農業に適した地域であることに加え、酪農業に従事するモンゴル族が、優良な伝統を長い歴史の中で受け継いできたこと、さらに、中央政府や自治区政府が地域の重要産業である酪農業を重視し、政策としてその発展を強力に推進してきたことがある。2005年に内モンゴルの首府呼和浩特市は、中国の乳都と命名された。内モンゴルの2000年の牛乳生産量は全国で第3位の67.9万トンであったのに対して、2013年には全国1位の910.2万トン、牛乳生産量の成長率は134%に達した。成長率は2000年以降13年連続で著しい成長を続けている。

### (3) 内モンゴル農村金融の概況

内モンゴル農村金融の改革は、国家金融改革に基づいて発展してきた。1951年3月に中国人民銀行が内モンゴル人民銀を傘下に収め、中国人民銀行の一支店とした。つまり内モンゴル金融は、他の省、区と同様に全国統一的な金融体制の下で実行されている。

#### 1) 内モンゴル農村金融改革

「改革開放」以来、内モンゴルの農村金融改革は大きく次の4段階に分けられる。第1段階(1979-1993年)は、回復発展段階である。この改革では、機能しない金融機構の回復と新たな金融機構が設立された。つまり、内モンゴル農村金融市場の多様化や金融機関間の競争環境が形成された。第2段階(1994-1996年)は、多様化発展段階である。この改革の目的は、第1段階の改革を基礎にして、内モンゴル農村経済の発展に見合った有効な金融システムを構築することである。この金融システムを活用して内モンゴル農村経済の発展を促進するというものである。第3段階(1997-2002年)は、整理段階である。第1と第2段階改革の中で出現した金融問題を、解決あるいは緩和された。一方、農村信用社の独占問題の台頭を促進し始めた。第4段階(2003以降)は、深化改革段階である。この段階は農村信用社の改革を中心としている。2003年6月

に国務院により「農村信用社の改革を深化させ法案に関する通知」が公布された。その主な内容は2つである。第1は、法人産権明確化の改革である。第2は、農村信用社を地方政府の管理体制下で監督を行う改革である。また、中国銀行業監督管理委員会（銀监会）は2006年12月20日、「社会主義新農村の建設支持に農村地区における銀行業金融機関の市場進出条件の緩和に関する若干の意見」を発表した。この政策は、農村地区金融供給不足、競争不十分などの課題を解決することを目的とするものであり、これをきっかけに、多くの新型農村金融機関が内モンゴルに雨後の筍のように設立された。

## 2) 内モンゴル農牧業資金の構成

国家財政管理体制により、内モンゴルの農牧業資金は中央政府と地方政府共同の支援により調達されている。その具体的な資金項目は以下の2つである。①中央政府によって提供された資金項目：農村インフラ基礎設備の建設、新型農村合作医療、農村低保支出、農業の助成、農村行政管理経費等。②地方政府によって提供される資金項目：地方特色な支援金と中央政府の支援金項目の補足金。提供される農村支援金に関する中央政府と地方政府の共通な特徴は、以下の3点である。第1は資金使用対象が分散していることである。第2は資金の供給面が広いことである。第3は資金の流れが複雑なことである。

## VI. 酪農企業の取り組み

本章における酪農企業の取り組みについて採り上げる金牧乳業養殖場は、張（2012）の現地調査の数量データをもとに、以下は筆者独自の考察を試みる。

### (1) 金牧乳業養殖場の概要

本稿で事例として採り上げる金牧乳業養殖場は、蒙牛乳業包頭乳源事業部に属し、内モンゴル巴彥淖爾市烏拉特前旗<sup>4)</sup>烏拉山鎮<sup>5)</sup>にある中規模な乳牛養殖場である。金牧乳業の敷地面積は4.5万m<sup>2</sup>である。金牧乳業は最新の設備で整備された中型搾乳所をはじめ、中型牛舎8棟（1棟当たりの敷地面積は、1000m<sup>2</sup>で、800頭の乳牛を飼養することが可能である。）飼料倉庫6棟（1棟当たりの敷地面積は200m<sup>2</sup>で）、大型総合倉庫2棟などを建設されている。また、金牧乳業は最新の自動搾乳設備を導入したうえで、独自管理システムを厳重に運用しているため、常に安全かつ安心な品質の生乳を安定的に供給することができている。そのため、数年連続で蒙牛企業の代表養殖区の称号が与えられている。

2011年末時点で20戸の酪農家が、金牧乳業に入場させた。金牧乳業に入居した20戸の酪農家による乳牛飼養頭数は610頭に達したのである。その内訳は搾乳牛330頭、育成牛290頭となっている。入居に際しての条件は、蒙牛乳業との生乳価格の交渉権などを養殖場に委託すること、搾乳所で搾った生乳全量を養殖場に引き渡すことである。この条件に関する酪農家のメリットは、①賃貸料や施設利用料などは無料になっていること。②個人の交渉による生乳1キログラムあたり2.4



元に比べ、2.95元という高い値段が得られることである。③金牧乳業からは生乳出荷量に応じて生乳の代金を月末ごとに酪農家に直接支払われることである。

また、金牧乳業の収益は、蒙牛乳業に出荷する生乳量によって支払われる450元/トンのサービズ料である。この経営は、蒙牛乳業にとって、安定的な生乳供給源の維持ができると同時に、酪農家としては、販売ルート確保や経営負担の軽減が図れるなど有益性が高い。一方、入居した酪農家は、金牧乳業から統一管理されている。とりわけ、飼料の自給が確保できない全量購入型の入居酪農家については、飼料メーカーとの取引をはじめ酪農経営を養殖場に委ねるなど、金牧乳業の経営力、ノウハウを最大限に活用することができる。

## (2) 金牧乳業の酪農経営

### 1) 酪農経営における投資金融

現地調査の対象となる金牧乳業の投資金融の融資対象は、大きく分けて金牧乳業建設用土地の購入、基礎施設建設、機械設備の購入の3つが挙げられる。金牧乳業の敷地面積は4.5万平方メートル、当時（2006年）購入価格20元/m<sup>2</sup>で計算すると90万元である。また、基礎施設建設にかかる費用は244万元である。さらに、機械設備の購入に必要な金額は47.9万元である。その内訳は表1のとおりである。

### 2) 酪農経営における内容と経済収支

表2は、金牧乳業の酪農経営の内容および経済収支を表している。まず、養殖場の乳牛飼養頭数を見ると、搾乳牛330頭に対して育成牛は290頭であり、総乳牛の飼養頭数は610頭に達している。次に、飼料供給の内容については、生乳の質を確保するため、供給している7種類濃厚飼料のうち5種類が蒙牛乳業により指定されている。コストを削減するため、高価な濃厚飼料の供給量を減らし、安価な粗飼料の供給量を増やす改善手法に取り組んでいる。また、生乳の搾乳量

表1 金牧乳業の酪農経営における投資金融

			(単位：元)	
項目		面積 (m <sup>2</sup> )	価額	
基礎 施設 建設	中型乳牛養殖舎	8,000	970,000	
	サイロ	1,200	600,000	
	搾乳所	500	250,000	
	大型総合倉庫	600	300,000	
	職員生活区域	500	320,000	
機械 設備	発電機		140,000	
	輸入自動搾乳設備		120,000	
	TV飼料ミキサー		185,000	
	ローダー		80,000	
	牧草ミキサー		30,000	
	その他		479,000	
養殖場建設用土地	45,000	970,000		
合計		4,444,000		

出典：張（2012）により筆者作成

表2 金牧乳業の養殖場における経済収支の分析

職員 (人)	搾乳設備員	6
	乳量記録員	1
	飼養員	8
	擠搾員	2
	飼料加工員	1
乳牛 (頭)	総頭数	610
	搾乳牛	330
	育成牛	290
濃厚飼料	月供給量 (トン)	100
	価格 (元/トン)	2,500
粗飼料	月供給量 (台)	45
	価格 (元/台)	1,000
搾乳量	1日当たり (トン)	5.8
	元/キロ	3.4
収入	元/月	591,600
	職員の給料 (月/元)	60,825
	飼料費用 (月/元)	291,700
	その他 (月/元)	24,460
支出	酪農家の生乳代	136,515
	金牧乳業養殖場の総所得 (月/元)	78,300

出典：張（2012）により筆者作成

は表2に示す通りであり、養殖場の搾乳量は1日当たり5.8トンで、1日あたり手取り価格は19,720円である。

さらに、表2から金牧乳業の経済状況における特徴を確認する。経済計算については、搾乳牛頭数や搾乳量などは時期によって変動するため、ここでは調査時点の搾乳牛頭数と搾乳量が1ヶ月間不変であると仮定し、計算した。養殖場の収入は、生乳販売である。生乳販売が主な収入源で、1ヶ月当たり金額は591,600円である。支出構成についてみると、職員給料、酪農家の生乳代、飼料費及びその他（掛け金、獣医師料、医薬品費など）となっており、飼料費が主な支出となっている。そのなかで、養殖場が最も大きな支払いを行っているのは濃厚飼料代である。

最後に、酪農所得をみると、金牧乳業の所得は、1ヶ月あたり総所得は78,300円である。飼料価格の高騰、販路開拓難などの厳しい環境の中、酪農経営の改善のためには政府の支援機能と金融機能への積極的な連携の推進することが必要であると考えられる。

### 3) 金牧乳業における投資金融の来源

以上の内容を踏まえ、金牧乳業における投資金融の由来について説明する。金牧乳業酪農経営における投資金融は、約445万元である。そのうち100万元は中国銀行から融資されたものである。また、中規模な養殖場が融資対象となり、金牧乳業がその対象となったため、農業部と国家発改委特殊産業支援から100万元が支援金として助成された。さらに、民間金融から約250万元の融資を受けた。その具体的な内容としては、次の3点が挙げられる。

第1は、内モンゴル巴彥淖爾市烏拉特前旗における金融機関のなか、蒙牛乳業が中国銀行と契約が結ばれている。そのため、中国銀行から多くの養殖場や酪農家（蒙牛乳業と取引する関係がある）に向ける融資が行われている。しかし、融資条件が厳しく、担保や保証を求められていることが普通である。金牧乳業は、蒙牛乳業の担保と3つ同じ規模養殖場の連保という融資条件を満たすため、中国銀行から月利率0.7%で100万元を融資したものである。

第2は、農業部と国家発改委特殊産業支援2013年から2015年までの内モンゴルにおける乳牛規模養殖場への資金助成は年間6,000万元である。しかし、助成資金が酪農業の発展ニーズに追いつかないため、その補助基準は、乳牛200頭～499頭、500頭～999頭、また乳牛1000頭以上規模の養殖場の新築、改造、拡大の対象としている。その支援金額はそれぞれ50万元、100万元、150万元である。金牧乳業養殖は乳牛500頭～999頭のランクに該当するため、政府から100万元の支援金を受けたのである。

第3は、金融機関については、養殖場や酪農家に対する融資条件が厳しいだけでなく、融資額が小さく、融資期間が短く、利息が高いといった特徴がある。一方、金融機関に対して民間金融組織は、金融機関の利息率に比べ利息率が高い反面、融資条件が易く、担保や保証を求められていない特徴がある。そのため、金牧乳業は、民間金融組織から月利息率5%（金融機関の平均月利息率は0.7%）という高い利息率で約250万元を借りた。

#### 4) まとめ

金牧乳業への調査により、飼料価格の高騰をはじめ様々な要因により、経営環境が厳しくなる中で、酪農経営における投資金融については、以下のような課題が存在することが分かった。

まず、民間金融組織が主要な資金調達先である。つまり、資金を調達するうえで、養殖場や酪農家にとって民間金融組織は必要不可欠な存在である。しかし、民間金融組織から融資し安い反面、高い利息の支払いは酪農経営者を悩ませる。次に、養殖場や酪農家が金融機関から融資を受けるうえで、蒙牛乳業が龍頭企業として担保や保証の役割を積極的に果たし、酪農業の持続的かつ健全な発展を維持することが重要である。しかし、担保や保証の条件は、養殖場や酪農家の乳牛飼養頭数と生乳生産量によって決められる。この条件が養殖場や酪農家にとって、資金調達難になる一つ原因と考えられる。また、金融機関が養殖場や酪農家に向けての金融サービスが不足だけではなく金融機関からの融資が受けにくい。例えば融資が受けられたとしても、龍頭企業の担保や保証或いは連帯保証といった厳しい条件が満たす必要がある。さらに、政府が国政策の下で、酪農業の振興を促進するために、一定の支援金額を支給されているが、養殖場や酪農家の利益を守るための適用な政策、法律が未整備或いは十分機能していない。

酪農業をめぐる厳しい経営環境のなかで、養殖場をはじめ酪農家の経営における資金融資難と支援策の不足を改めて確認した。上述のとおり、重要な酪農産地として、内モンゴル酪農業において重要な役割を果たしている養殖場と酪農家が直面している課題に柔軟に対応し、解決していくことが、不可欠である。そのため、養殖場と酪農家の経営を継続し、生乳の安定供給を確保するには、政府の役割が十分に機能することのみならず、有効な金融システムを整備することが重要となる。

## Ⅶ. おわりに

酪農産地として重要な地位を維持し続けるためには、「酪農強区の建設を加速する」という包括的な政策だけでなく、科学的な育牛を着実に促進するという方針の下、養殖場と酪農家の増収による経営安定を図るためには、支援政策の充実と有効な金融システムを整備することが必要となる。具体的な方策としては、次の3点が重要となる。

第1は、科学的な育牛への転換過程の加速と、資金支援の円滑な実施である。小規模酪農家への支援の核心は、各養殖場と酪農家のニーズに柔軟に対応できる支援事業を行うことである。

第2は、金融機関の金融サービスが十分に機能することである。商業銀行をはじめ、農村信用社などの金融機関は酪農経営に向けた資金融資を充実するだけでなく、融資条件を緩和することによる酪農就業者が資金融資し易い金融システムを整備することである。それにより、金融機関と酪農龍頭企業（乳製品加工部門が地域の経済活動をリードする企業）、酪農龍頭企業と酪農就業者の有益な生産環境を形成され、金融機関、酪農龍頭企業、酪農就業者三者間の共存共栄が図

られる。

第3は、民間金融組織を合法的に管理することである。酪農業の発展を促進するうえで、民間金融組織は重要な役割を果たしている。しかし、法律に基づいて形成された組織でないため、資金を融資し易い反面、利息率が高いなどという悪影響がある。そのため、民間金融組織の役割の重要性を改めて認識し、法律に基づいて管理する金融機関を補完する組織として、資金融資の環境を充実することができる。そのための支援体制の充実と有効な金融システムを整備することが望まれる。

(しゅう か・高崎経済大学大学院地域政策研究科博士後期課程)

**注：**

- 1) 地域の新たな成長産業に関する捉え方については、河藤（2013、2014）を参考にした。
- 2) 長谷川 敦・谷口 清（2010）による。
- 3) 農業部調査によれば、2003年の農村における民間金融組織の54%は無利子で、借入側は労務などを提供していた [張、謝、張（2005）]。
- 4) 旗とは、日本の市に該当する。
- 5) 鎮とは、日本の村に該当する。

**参考文献：**

- 岡崎 久美子「中国農村金融制度改革の現状と課題：銀行業金融機関の再生と三農政策に呼応した取り組みの中間評価」、『金融研究』2014年4月号。
- 河藤 佳彦「地域中小企業のイノベーション推進に関する考察：群馬県太田市の機械産業を事例として」商工総合研究所『商工金融』第63巻第5号、2013、pp.32-50。
- 河藤 佳彦「産業都市としての室蘭市における地域経済再生戦略」（日本都市学会年報）VOL、47、2014、pp.45-54。
- 長谷川 敦・谷口 清「中国の酪農・乳業の概要」独立行政法人畜産産業振興機構『中国の酪農と牛乳・乳製品市場』農林統計出版、2010、pp.1-50。
- 王 雷軒「最近の中国における農村金融の現状と特徴」『農林金融』2013年2月号。
- 王国華、李克強「論我国農村金融抑制与金融制度創新」中央財經大学学报、2006年5月号。
- 張朝暉、賈卓鵬「農村非正規金融的發展与規範」『濟南金融』2007年第4期、中国人民銀行濟南分行、2007。
- 張傑・謝曉雪・張淑敏「中国農村金融服務：金融需求与制度供給」、『貨幣金融評論』2005年第4期、中国財政金融政策研究中心、2005。
- 張 杰「内モンゴル乳産業發展進程中的金融支援問題研究」、修士学位論文、2012年6月。
- GONZALEZ-VEGA, Claudio. Deepening rural financial markets: Macroeconomic, policy and political dimensions. In: conference "Paving the Way Forward: An International Conference on Best Practices in Rural Finance." Washington, DC. 2003. pp.2-6.